

経営比較分析表

大分県 豊後大野市

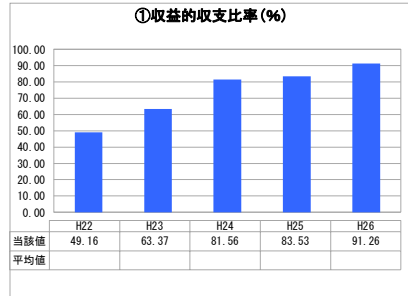
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	3.21	94.55	3,606

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,643	603.14	64.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,229	0.77	1,596.10

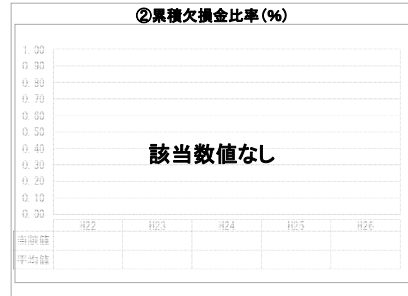
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

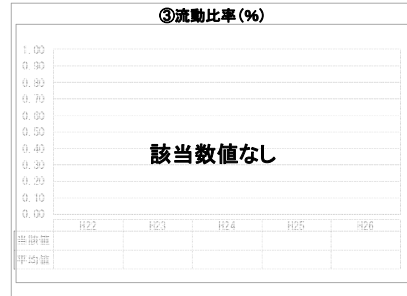
1. 経営の健全性・効率性



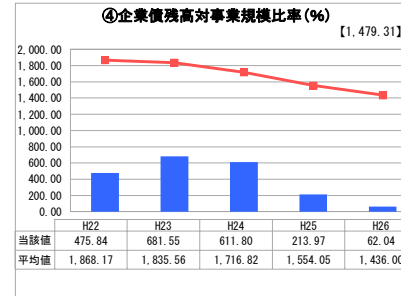
「単年度の収支」



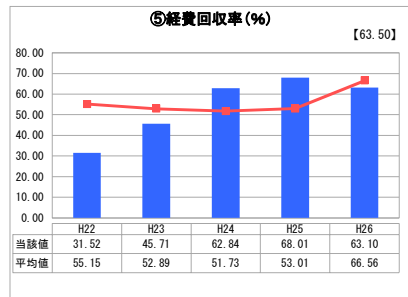
「累積欠損」



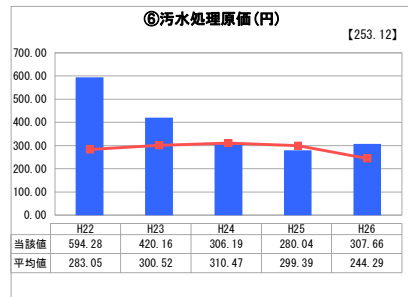
「支払能力」



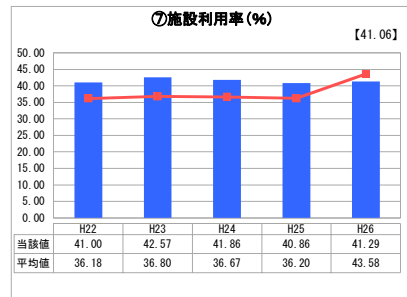
「債務残高」



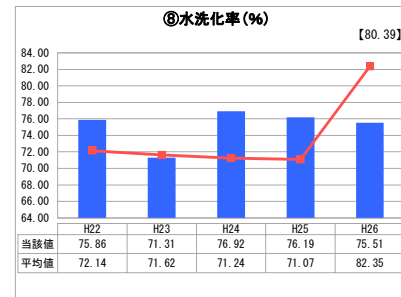
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

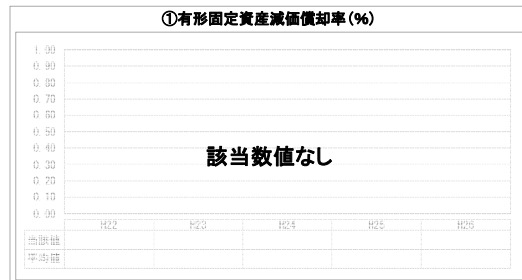


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

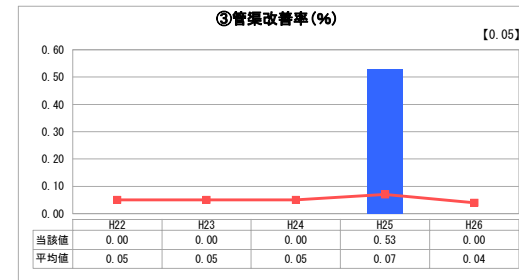
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は改善傾向にはあるが、使用料とは別に一般会計からの繰入金に依存しているところも大きく、経費回収率は類似団体と比較して低くなっている。今後は適正な使用料収入の確保、汚水処理費の削減が課題となる。

また、平成26年度の指標では、水洗化率が類似団体に比べて低くなっているが、これに伴い経費回収率、施設利用率が類似団体の平均と比較して低くなっており、汚水処理原価については高くなっている。今後も引き続き未接続世帯への普及促進を図り、水洗化率の向上に努める。

企業債残高対事業規模比率については、地方債償還のピークを越えたことから、類似団体と比較しても著しく低いことから、企業債残高に対する一般会計の負担すべき金額が比較的大きいことも窺える。

2. 老朽化の状況について

運用開始から15年しか経過しておらず、耐用年数までには期間があるため管渠改善率は0%になっている。平成25年度については高規格道路の開設に伴う管渠の移設があったため一時的に数値の変動があった。

全体総括

平成16年に整備完了した比較的新しい施設ではあるが、水洗化率が低く効率的な経営が出来ていない。経営改善のためには、今後も引き続き未接続世帯への普及促進に努め、水洗化人口及び有収水量の増加を目指す必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。